



今回は、SGH 課題研究・フィールドワーク発表会の報告です。

◇ 関市文化会館で日本語・英語のプレゼン大会を行いました

日時：平成29年2月21日(火) 9:00 ~ 12:40

場所：関市文化会館

参加：1・2年生生徒全員

内容：第一部 「関の刃物を世界に売り込もう」(学年一斉テーマ)

1年生各クラス代表チームによる日本語プレゼン

第二部 「グローバル 이슈に関する課題解決型研究」(独自テーマ)

2年生各クラス代表チームによる英語プレゼン

第三部 「国際フィールドワーク成果発表」

イギリス研修、ベトナム研修、礼文島国際フィールドスクール参加者の報告

◇ 1年生 関の刃物を世界に売り込もう

私たち1年生はグローバルな視点を持ち、「関の刃物を世界に広めるには」をテーマにSGH研究を行いました。まずは、関の刃物産業の現状について、世界に広めることがテーマにあることから、輸出相手国と輸出額の推移について説明しました。これに引き続き、各クラスからの提案がありました。

7組 「手裏剣シュシュシュ！」

世界で多くの人々が興味・関心のあるスポーツと日本の文化の1つである忍者に注目し、新しいスポーツを考案しました。手裏剣をダーツのように的にあて、その点数を競う競技です。忍者から手裏剣に注目した理由は、忍者を主人公にした漫画の「NARUTO」は「ドラえもん」を上回る売り上げを誇ることで、外国人へのおすすめスポットとして忍者体験施設がテレビで紹介された事例、愛知県の観光PRのために忍者を募集したら多くの外国人が集まったというニュースから、忍者は人気であると判断しました。競技用手裏剣は作成可能であるのかを刃物工房に相談したところ可能と解答をいただき、実際に手裏剣スポーツをシミュレーションしてみました。外国人に人気の高い分野で刃物とスポーツをコラボレーションすることで、世界に広めることができるのではないかと提案しました。



1組 「ご当地包丁」

近年、日本への外国人観光客が増加している点に着目し、各観光地のデザインを包丁に施したご当地包丁を作成し、ショッピングモール・駅周辺・空港内・サービスエリア(道の駅)で販売することを提案しました。包丁にデザインをつける方法としては、レーザー加工・腐食・電気腐食が考えられますが、コストも考慮し電気腐食にて加工することを推奨します。また、実際に腐食によるデザイン包丁の作成を行い、関のご当地包丁を作成しました。高校生にも作る事ができるため、専門家ならもっと美しく品質の良いものが作成できると考えます。以上より、訪日外

国人を対象に、ご当地包丁として日本各地のデザイン包丁を販売し、多くの外国人に知ってもらうことによって世界に広めることができると提案しました。

*作成したデザイン案



*関のご当地包丁の作成



5組 「そうだ、“美容祭”を開こう」

現在、流行をつくるのは若者であり、「若い力=破壊力」をキーワードに若者が刃物に興味があるかの意識調査のため、関高校1年生を対象に「刃物への興味があるか」「身近に刃物産業関係の従事者がいるか」「刃物まつりへの参加経験の有無」の3項目に絞ってアンケートを行いました。刃物まつりへの参加経験は約6割の生徒があるものの、興味、刃物産業への従事者の項目については3分の1以下という結果でした。これでは、関の刃物を広めることができなれないと思ひ、若者の関心が高く、刃物の出番が多い美容師という職業に注目し、美容特化型刃物まつりを開催することにより、シザーブランド関が誕生するのではないかと考えました。具体案としては、美容院店舗数・美容師数ともに全国5位に入る愛知県の名古屋での美容祭の開催と美容雑誌とのコラボレーションにより特集を組むことで、若い美容師を中心に関の刃物が広められると提案しました。



3組 「We are Seki Tuber」

動画は経済効果を秘めていると考え「関・刃物 movie コンテスト」の開催を提案します。関市のPR動画「～もしものハナシ～ (刃無し)」はテレビ番組34本以上、WEBニュース200件

以上で取り上げられ、ふるさと納税の申し込み額は前年比の1.8倍にまで激増しています。ツイッターやYouTube、Instagramなどのアプリにより、作品によっては何百人もの人に見てもらえるチャンスがあります。また、長崎県波佐見町で行われた、特産品の波佐見焼きを使った食卓の写真を投稿する参加型イベントにヒントを得て、多くの人に参加できるコンテストを開催することを考えました。これにより、作成に携わる若者の意識の向上や、関の知名度向上や刃物を認識するきっかけになると思います。参加者が多くなればその分ユニークな作品が隠れている可能性があり、コンテストの評価にもネット審査や再生回数・いいね！数・リツイート数を参考にするなど、多くの人に関わってもらうことにより、関市＝刃物を広めることができるのではないのでしょうか。



4組 「ギネスで関の刃物を世界へ」

ホームページ「四季の美」で金工品の検索回数について調べてみると、関がランク外であり、全国的に知名度が低いと考えられます。そこで、知名度を上げる→海外からの需要の増加・継承者の獲得→生産量増加→出荷量増加→関の刃物が世界へ広げるというプランを立て、根幹となる知名度を上げるために、ギネスに挑戦することを考えました。ギネスに挑戦する利点としては、「世界一」という響き、情報の広まりやすさがあげられます。ギネスに認定される＝注目が集まる、知名度が上がるということです。ギネスに登録されるためには、計測可能・証明可能・標準化可能・記録更新可能という条件が必要となります。関市の刃物の折れない、よく切れる、曲がらないという特徴より、ギネス認定を目指し3つのギネス案を作成しシミュレーションを行いました。一つ目は刃物で野球、模擬刀をバットの代わりに用いて何打席まで耐えることができるかを計測します。2つ目は、世界一硬い食べ物である鯉節を30秒間に何本切ることができるかを計測します。3つ目は、日本刀に用いられている鋼を準備し何人乗ることができるかを計測します。ギネス登録となればこのニュースはたちまち日本中、世界中へと広まり出荷額も激増するでしょう。



6組 「届けアフリカへ、関市の刃物」

刃物の輸出相手国は欧米とアジアで大半を占め、中南米とアフリカへの輸出がたったの1%であること、理髪用刃物の国内シェアでは全国の有名な刃物産地を抑え岐阜県の関市が70%を占め第1位であることから、今後開拓が期待できるアフリカへ関市が自信をもって売り出せる商品の理髪用刃物を売りこむことを提案します。アフリカを選んだ理由としては、野村総研の報告書よりアフリカ人の美容意識の高さと世界が注目している巨大市場であるということ、日本の刃物企業の進出が



少ないことがあげられます。実際に、関市の現状について、話を伺ったなかで、現在のヨーロッパで開催される見本市へ出店しており、アフリカへの輸出はその見本市からの間接的な輸出であることもわかりました。アフリカへ売り込む具体的な手段としては、今後アフリカで開催予定の見本市・展示会は14か国で52件あるので、ここで関の刃物がアピールできるのではないかと思います。また、すでにアフリカへ進出している大手化粧品メーカーとのタイアップを提案します。アフリカ人は美容意識が高く美容に対する支出の比重が高いことから化粧品とヘアケアを関連させ、理髪用刃物やカミソリの売り込みができるのではないかと考えます。

2組 「刃物ツアー」

有効的・効率的な情報の拡散方法として、外国人をターゲットとした「刃物ツアー in SEKI」を提案します。外国人に関に招致するのは大変難しいですが、実現できれば絶大な効果を生むと考えます。具体的な刃物ツアーの予定は、アクセスのよい名古屋に集合し、関市へ向かいます。関鍛冶伝承館・岐阜県刃物会館で刃物についての見聞を広め、「観光列車ながら」で自然を満喫し、関市内のホテルで一泊。夏には鵜飼を楽しむこともできます。二日目は、名古屋に戻り魂刀愛知名古屋道場で殺陣を楽しみ解散です。また、このツアーの中で土産として刃物を購入する方も多くみえるでしょう。お土産の効果として情報の伝達効率がよく、広告費の削減にもなることから、ツアーに参加した外国人から効率よく関の刃物が広まっていくと考えます。これにより、切れ味のよい日本の刃物ではなく、“関”の刃物という認識が広まり、将来的には関の刃物が世界に波及し、関市の活性化、刃物産業従事者数の増加を招くことと思います。



◇ 2年生課題研究英語プレゼン 各クラス代表の発表内容

2年1組 “NINNIN!!” 「NINJA!—忍者から教わる現代の地域発展—」

日本といえば、和食、富士山…そして忍者。彼らはアニメや時代劇など、様々な所で活躍しています。そんな彼らの本当の姿を教えてくれる場所、「忍者村」。伝統ある場所のはずなのに、残念ながらあまり有名ではないようです。私達は実際に忍者村へ行き、地域の発展について考えました。



2年2組 “Improvement in Developing Countries” 「発展途上国の向上」

私達の研究テーマは「発展途上国の向上」です。その中でも「ベトナムの介護」について研究しました。日本とベトナムの現在の介護の状況について施設訪問やインタビューを通して知り、ベトナムの発展のために、日本そして私達には何が出来るのかを考えました。



2年3組 “What Can We Do for Homosexual and Bisexual?”

「同性愛者、両性愛者の方々が暮らしやすくなるために」
私達の研究は同性愛、両性愛をピックアップしたものです。異性愛も同性愛も、根幹にあるのは誰かを愛しく想う気持ち、またそれを保証する自由と権利、ただそれだけなのではないでしょうか。今日、私達の発表を聞いてくださる貴方が、明日も誰かを愛せることを願います。



2年4組 “Hero for the Poor” 「貧困地域の救世主」

多くのアフリカの子も達が飢餓で苦しんでいます。そして、約8億人の人が安全な水を手に入れることができず、水道水を飲むことができていません。僕達はこの問題の解決に向けて、世界の水と栄養の問題それぞれに、簡易浄水機の設置とミドリムシの栽培を解決策としてあげます。これは貧困の解決に貢献するでしょう。



2年5組 “For the Revitalization of Mino City”

「美濃市の活性化のために」

ある日、1人の女の子が男の子達にいじめられていた。その内容は美濃市の人口が減少している事についてらしい。女の子は困っていた。そこに4人の救世主が現れた。救世主達は世界遺産、美濃和紙のすばらしさについて教え、男の子達を説得していく。そして美濃市をもっと世界に広め、伝えようと踏み込んでいく…。



2年6組 “With the Aim of a Better Life”

「快適な暮らしを目指して」

現在の点字ブロックの設置状況は、壊れていたりいくつかの種類が混在したりしています。そのため、目の不自由な方々が安心して快適に生活することができていません。どんな人でも自由に暮らす権利があると思います。それを少しでも実現するために、私たちにもできることがあるのではないのでしょうか。



2年7組 “The Importance of Remote Medical Care”

「へき地医療が築く地域社会」

みなさん、「へき地」というものを知っていますか。岐阜県でいうと「白川村」や「洞戸」のように医療の確保が困難である地域のことをいいます。私達はこのような地域で医療を行い、進歩させていくには何が必要かについて調査しました。



イギリス研修 1-4 沼田 到磨

イギリスのプレゼンでは「イギリス研修とはこういうものなんだ」と理解を深めてもらうことに留意して作成しました。僕は動画の作成をしました。あえてパワーポイントを使わず、動画にすることによって、ヘイドン校でのディスカッションや日本文化紹介、ケンブリッジ大学での研修の様子などが、より鮮明に皆さんに伝わったと思います。音楽もつけて、イギリスの雰囲気も演出しました。またランチタイムのバスケットボールでの交流の様子も、寸劇を取り入れて面白く紹介することができました。イギリスでの多くの貴重な体験をSGH発表会で全校生徒へ伝えられてよかったです。



ベトナム研修 1-4 大野 飛鳥

私は発表会ではたった2文しかスピーチをしていません。しかし、その2文からいろいろな人の思いや頑張り、緊張感、来年目指していくべき姿、といった様々なことを学び、感じることができました。だから今回発表者としてSGH発表会に参加できたことをとてもうれしく思います。私は「人への伝え方」の重要性を学びました。自分の思いをどう話したら相手に伝わるかを考え、工夫しました。この力は将来必ず役に立ちます。一方で、2年生の先輩方の英語発表を見て、今のままの自分で満足してはいけなかったと思います。私は関高校のSGHだからこそ学べることを、参加できることには積極的に参加して、自分のレベルアップにつなげていきたいと改めて思いました。



礼文島研修 1-3 芝 雄介

今回の発表で、僕たちは2つのことを学ぶことができました。1つは発表方法です。聴衆の皆さんにとっては、初めて聞く内容だったり、イメージすることが難しい内容を英語で聞くので、僕たちは聞き手にわかりやすく伝えるにはどうすればいいかを考えました。写真を指しながらジェスチャーを交えて話すなど、なるべくイメージしやすい発表を心がけました。2つ目は発表姿勢です。今まで体験したことのない英語での発表で心配もありました。たとえ間違えても良いから、自分の話す英語に自信を持ち、堂々と話すことを心がけました。



このように今回の発表では、いかに相手にわかりやすく伝えるかということ、自分に自信を持つこと、そして何より緊張感の中で楽しんで発表できたことが、大きな成果だと感じました。